



を足止めするほどの建築空間が目の前に広がったことの証明でもあると感じている。

新校舎の完成から早くも1年が経過。供用開始直後の4月、熊本地震の発生などで図らずも耐震性が試されることになったが防火扉の稼働を含め異常は全くなく、あらためて新校舎のありがたさを痛感した。学校教育の

夏には台湾の謝長廷駐日代表と戎義俊福岡総領事も立ち寄られた。謝代表らは直前に草野家住宅も見学されたので、戎総領事から「古いものと最新のものと両方のお世話は見事ですね」との感想を

頂いた。

建物としては斬新な発想の下に設計されており、見学者も数多く訪れた。

と破壊と創造



草野 義輔

そして新年を迎えた今、旧校舎の解体工事が始まっている。50年余りお世話になった校舎が姿を消していく様子は、

5月、馳浩文部科学大臣（当時）が来

校されたが、時間がないとのこと。それが建てられた時の先達の苦勞が思われ、感慨深いものがある。

古いものはいずれ壊れていく。

それが新たなものに受け継がれていくことが大切だと思う。創造と

破壊、そこに歴史がつくられていくのだらう。

「これはいいね」。何とか追いついた私はようやく説明する場所と時間をもらえた次第。急ぐ大臣

（昭和学園高校理事・日田市）